

鉄道ピクトリアル

2007年6月号 Vol.57 No.6 通巻No.790

<特集> スイッチバック

■表紙 スイッチバック時代の大志田駅……………山口 徹

大志田 1982-3-11

■グラフィック

山越えの旅情(1~8ページ)

山岡亮治・高橋健一・小野啓一・進藤 匡・千葉恵一
渡辺裕太郎・大里信之・山中 茂・和田康之・植手直紀
山口 徹・安田孝哉・川波伊知郎・井上 武・清藤清常
高橋憲一郎・長谷佳哉・飯塚卓治・白土洋次・河原慶明

*

スイッチバック思い出の情景—蒸機時代の記録から—

……………構成：編集部… 33

中央東線のスイッチバック停車場遺構を歩く ……構成：編集部… 44

立山砂防工事専用軌道に見るスイッチバックの妙

……………進藤 匡… 46

京阪神地区 冬の修学旅行臨 2007年 ……松橋 均… 48

*

Pictorial Color Gallery 花街道 ……和田 京太… 73

〔京浜急行電鉄 新1000形6次車/JR西日本「やくも」用381系アコモ改善車/仙台空港鉄道開業/大阪モノレール彩都線延伸開業/平成筑豊鉄道400形/くりはら田園鉄道・鹿島鉄道・西鉄宮地岳線西鉄新宮—津屋崎間 2007年4月1日廃止/東京地下鉄5809F・北総鉄道7000形・京成電鉄3298F・豊橋鉄道モ3702が引退/PASMOスタート/東京モノレール・阪急京東線ダイヤ改正/阪神電車の近況ほか

76~79, 84・85

2007年3月18日 JRグループダイヤ改正……………80

神戸電鉄の話題 3月31日ダイヤ改正……………米倉裕一郎… 83

小田急電鉄5000形の近況 ……長内 宏… 86

西鉄宮地岳線 廃止区間に拾う……………中島 廣… 87

高山本線岐阜口の貨物列車廃止/「ありがとう415系号」運転

……………渡利正彦ほか… 88

トピック・フォト(各地・関東・中部・関西)……………89

ミャンマーを走る日本の車両 ……斎藤 幹雄… 96

■本文

今月の話題：スイッチバック ……編集部… 9

わが国の峠越え鉄道とスイッチバック停車場 ……大島登志彦… 10

スイッチバック停車場総覧 ……祖田 圭介… 16

回想 中央本線のスイッチバック停車場 ……中川 浩一… 50

大畑ループ線とスイッチバックの思い出 ……福井 弘… 56

東海道本線 旧友田信号場に関する考察 ……大庭 正八… 60

*

鉄道の話 ……編集部… 32

書評(524)『[図説]鉄道車両はこうして生まれる』…和久田康雄… 49

通過列車とタブレット ……多羅尾光睦… 64

3月のメモ帳 ……72

横浜市交通局10000形……………熊谷 勝博… 97

都市鉄道の急行運転を考える ……藤田 崇義… 102

私の鉄道人生75年史 第6回 新米車両課員の日々(その1)

……………里田 啓… 108

ミャンマーへ渡った日本の車両—第3報— ……斎藤 幹雄… 112

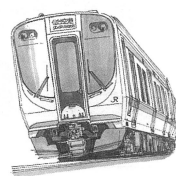
読者短信・情報ファイル ……119

後部車から ……123

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru

今月の話題



カット：山本茂樹

スイッチバック

山岳地帯に多くの路線を有する日本の鉄道は、古くからさまざまな技術によって勾配区間を克服してきた。明治以降、急勾配に対応した車両開発、補機を用いた列車運転、そして路線の設定に際してはトンネルの掘削、ループ線、アプト式、スイッチバック式停車場などを駆使して、近代における全国の鉄道ネットワークが形成されてきたのである。こうした、勾配線区特有の技術の中からスイッチバック式停車場にスポットを当てたのが本特集である。

スイッチバック式停車場は、歴史的には長大トンネルの掘削が技術的に困難であった明治時代に建設された路線に採用例が多かったようだが、それ以降でも地方線区の勾配区間を中心に採用例が少なからず見られる。スイッチバックの基本はZ形の線形により勾配を登るものであるが、形態としては多数の応用、変形スタイルが存在しており、基本型は少数派である。いずれも運転取扱い面からは輸送のネックとなるものが、輸送力増強、列車のスピードアップが進められてきた中で、改良により多くが姿を消していった。しかし、スイッチバック停車場は、勾配線区の代表的風景でもあり、今日でも篠ノ井線娘捨をはじめ全国各地に散見され、独特の情緒を有する魅力を持った駅として人気が高い。

一方、スイッチバックは勾配線区に限ったものではなく、都市の鉄道など、平地を走る路線でも採用しているケースはある。西武鉄道の飯能、小田急電鉄の藤沢など、建設時のいろいろな事情、あるいは運転構成からスイッチバックになった例が多く、いずれも折返型である。勾配線区のスイッチバックとは異なり、こちらは容易に改良されるものではないから、その多くが現存している。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan